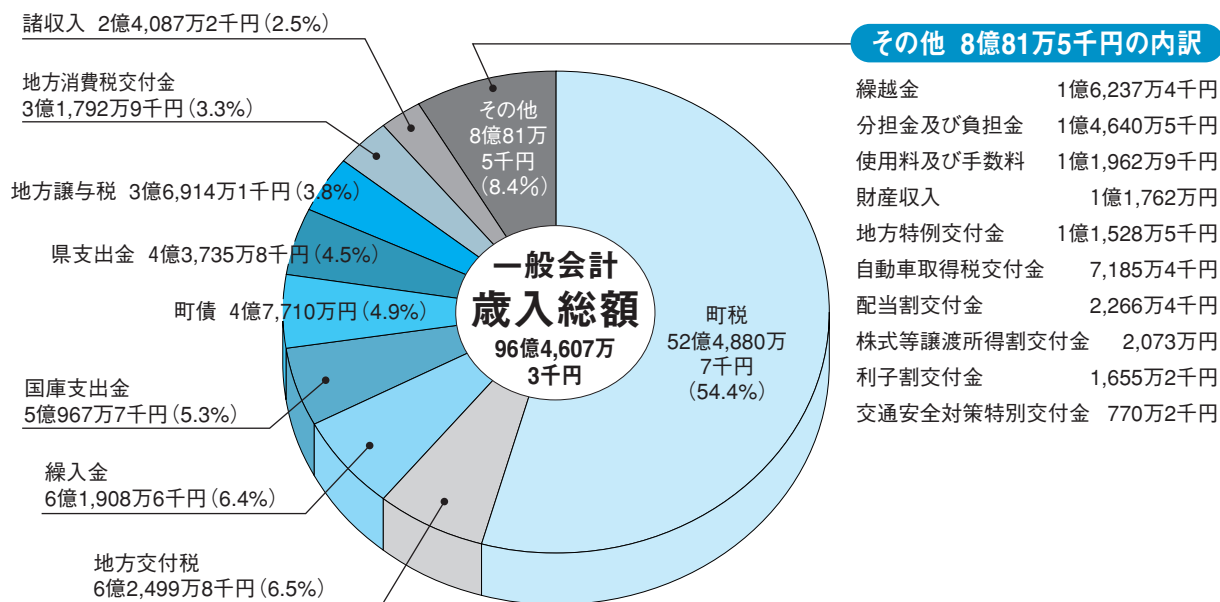


# 決算報告

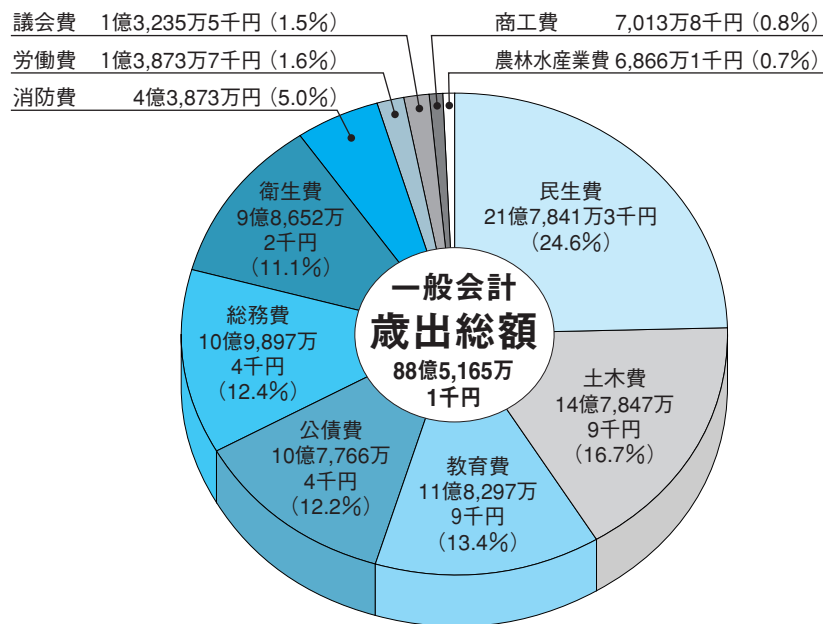
## 歳入総額 96億4,607万3千円



### その他 8億81万5千円の内訳

繰越金	1億6,237万4千円
分担金及び負担金	1億4,640万5千円
使用料及び手数料	1億1,962万9千円
財産収入	1億1,762万円
地方特例交付金	1億1,528万5千円
自動車取得税交付金	7,185万4千円
配当割交付金	2,266万4千円
株式等譲渡所得割交付金	2,073万円
利子割交付金	1,655万2千円
交通安全対策特別交付金	770万2千円

## 歳出総額 88億5,165万1千円



### 用語解説

**<歳入>**  
**町税**…所得にかかる町民税や土地・建物に係る固定資産税など  
**町債**…事業を行うために借り入れたお金  
**地方交付税**…町の財政需要に応じて国から交付されるお金  
**国庫支出金、県支出金**…事業を行うための国や県からの負担金や補助金  
**繰入金**…各種基金（預金）から一般会計へ繰り入れたお金

**<歳出>**  
**土木費**…道路や公園の整備など **民生費**…高齢者や障害者、児童のための福祉など **教育費**…学校や公民館の整備など **公債費**…町債などの借入金の返済 **総務費**…財産管理や企画・税務事務など **衛生費**…ごみ・し尿処理や予防接種など **消防費**…消火・水防活動など **労働費**…労働者への福利厚生など **議会費**…議会の運営など **農林水産業費**…農業・水産業の振興など **商工費**…産業の振興や観光など

特別会計区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額
国民健康保険事業	32億8,667万9千円	30億4,101万9千円	2億4,566万円
財産区	10億8,921万2千円	1,599万円	10億7,322万2千円
老人保健医療事業	20億4,432万4千円	20億8,020万2千円	△3,587万8千円
下水道事業	8億8,671万9千円	8億8,671万9千円	0千円
介護保険事業	13億7,903万4千円	12億3,704万4千円	1億4,199万円
(小計)	86億8,596万8千円	72億6,097万4千円	14億2,499万4千円

※老人保健医療事業特別会計の歳入歳出不足額は、翌年度歳入繰上充用金で補てん。

### 特別会計の状況

5つの特別会計の各決算額は次の通りです。

「公債費」は、10億7766万4千円で全体の12.2%を占め、各種施設などの建設・改修などのために借り入れたお金の返済に使用しました。

「土木費」は、14億7847万9千円で全体の16.7%を占め、小・中学校関係に4億5126万4千円、幼稚園関係に1億6593万6千円、公民館・コミセン・図書館などの運営や人権教育の充実など社会教育関係に3億650万3千円、そしてスポーツ施設関係に4304万5千円を使用しました。

### 一般会計の決算

平成18年度の一般会計の決算額は、歳入（収入）が96億4607万3千円、歳出（支出）が88億5165万1千円で、差し引き7億9422万2千円となり、これらから翌年度（平成19年度）へ持ち越す1億4005万3千円を除くと、実質6億5436万9千円の黒字となりました。

町税は、前年度に引き続き増額歳入については、総額96億4607万3千円で、前年度に比べて5億1326万8千円、5.1%の減額となりました。

このうち、皆さんから納めていただいた町税（町民税・固定資産税・軽自動車税・町たばこ税・都市計画税）は、52億4880万7千円で、前年度に比べて約3億1千万円（6.3%）の増収となり、その要因としては景気の回復基調を反映した法人及び個人町民税の大幅な増収などが挙げられます。

地方交付税においては、6億2499万8千円で41.0%の大幅な減額となりました。

町の財金でもある基金からの繰入金は、6億1908万6千円で、うち一般会計の歳入不足を補う財政調整基金からの繰入は5億8195万3千円です。

町債（町の借金）においても27.0%減額の4億7710万円となっています。主なものは、普通交

### 歳入

最も支出の多かった「民生費」は21億7841万3千円で全体の24.6%を占め、健康いきいきセンターなどの運営や障害者、高齢者などの社会福祉事業に12億5594万2千円、児童手当の支給や保育園の運営など児童福祉事業に9億2242万1千円を使用しました。

次に「土木費」で、14億7847万9千円で全体の16.7%を占め、大中遺跡公園新設や都市公園の維持管理など都市計画事業に8億7548万2千円、大中二見線などの道路の新設改良事業に2億2807万4千円を使用しました。

「教育費」は、11億8297万9千円、全体の13.4%を占めて

皆さんが納めた税金や国・県からの補助金は私たちの生活をより良くするためにいろいろな形で使われています。今回は、平成18年度決算についてお知らせします。

▼問い合わせ 総務グループ ☎079(435)0357

## 平成18年度のバランスシート(貸借対照表) (千円単位で端数整理)

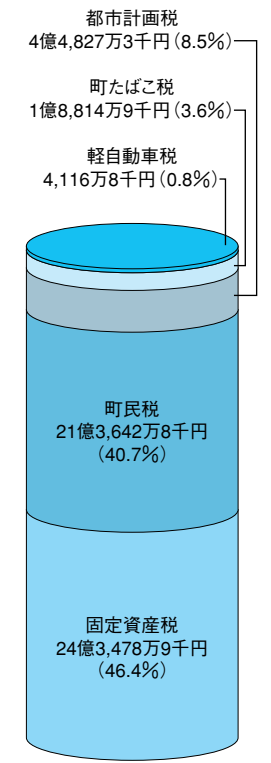
借方	貸方
<b>有形固定資産</b> ※1 学校、道路、橋、庁舎など 512億2千万円 (うち土地 289億6千万円)	<b>負債</b> 借入金(町債)※ 88億6千万円 退職給与引当金※ 15億2千万円 翌年度償還予定額 7億5千万円 負債計 111億3千万円
<b>投資など基金など(固定的なもの)</b> ※2 出資金など 24億8千万円	<b>正味資産</b> 国、県の補助金、資産形成※4 に使った一般財源など 485億6千万円
<b>流動資産</b> ※3 現金預金、基金(現金化が容易なもの) 未収金(税など) 59億9千万円	<b>計</b> 596億9千万円
<b>計</b> 596億9千万円	<b>計</b> 596億9千万円

### 平成18年度住民1人あたりのバランスシート

借方	貸方
<b>有形固定資産</b> (うち土地 84.6万円)	<b>負債</b> 32.5万円
<b>投資など</b> 7.2万円	<b>正味資産</b> 141.8万円
<b>流動資産</b> 17.6万円	<b>計</b> 174.3万円
<b>計</b> 174.3万円	<b>計</b> 174.3万円

人口 34,252人 (H19.4.1現在)

### 町税 52億4,880万7千円の内訳





# 公営企業水道事業の平成18年度決算報告

## 用語解説

- **収益的収支** 水道料金による収入と水を作ったり、家庭に送るための維持管理経費などを中心とした営業活動の収支
- **水道料金** 使用者の皆さんに支払っていただいた水道料金
- **受託工事収益** 給水装置の新設または修繕などの工事受託による収益
- **人件費** 水道事業所で働く職員の給料など
- **受水費** 兵庫県から水道水を買った費用。播磨町は約9割を井戸水でまかなっていますが、井戸の延命を計り、また災害などの緊急時に備えるため、一部を兵庫県から購入しています
- **減価償却費** 施設の資産価値の減少分。将来、老朽化した施設を更新するための財源となります
- **支払利息** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の利息
- **受託工事費** 給水装置の新設または修繕などの受託工事に要する費用
- **その他** 水をつくるために必要な薬品や動力費、集金や検針、水道管の修理や古くなったメーターの交換などにかかった費用
- **資本的収支** 古くなった水道施設の改良や新しい施設をつくるために必要な資金の収支
- **負担金** 建設または改良工事のための工事負担金や新たに水道水を使う時に支払っていただいた加入分担金や給水装置負担金など
- **内部留保資金による補てん** 減価償却費等資産を再構築するために積み立ててきた資金
- **建設改良費** 古くなった水道管を付け替えたり、新しく水道管を延ばしたりするのに要した経費
- **企業債償還金** 施設建設の際に借りたお金（企業債）の元金返済分

## 今後の事業展望

水道事業では、住民サービスの向上と、業務におけるコスト削減を徹底し赤字の解消を目指しているところですが、収益の根幹である給水収益は、節水型社会への移行が定着しつつあるため、今後増加することが見込めません。限られた収益のなか、業務コストの削減・見直し、計画的な水道施設修繕・更新を行うことで、費用を削減し、安易な水道料金の値上げをすることのないよう努力します。

主な事業予定は次の通りです。

### ①鉛管対策事業

町内全域で約2,650戸残る鉛管を平成18年度よりおおむね10ヵ年で順次取り替えを行っています。

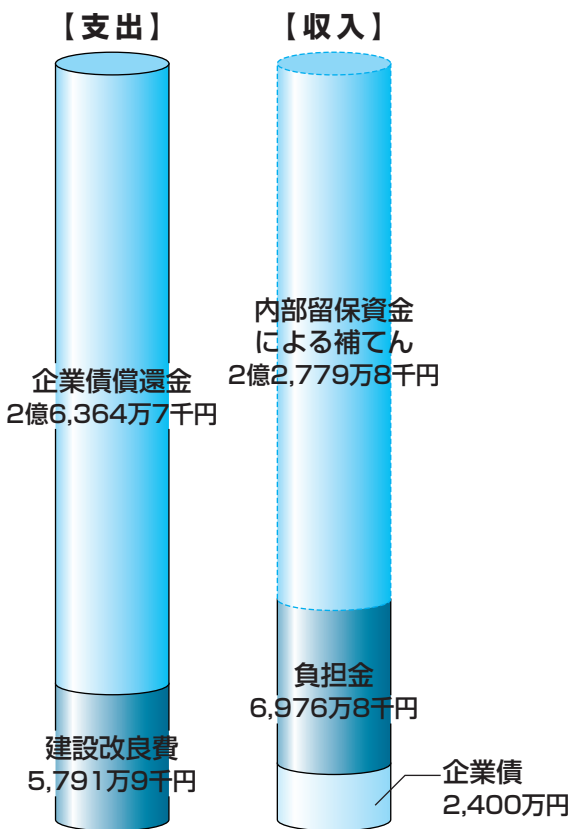
### ②第3浄水場施設の更新

平成19年度より老朽化した浄水場施設の更新を行っています。

●●財務諸表などを町のホームページにて公開しています●●  
播磨町ホームページアドレス <http://www.town.harima.lg.jp>

## (税込み) 資本的収支

古くなった水道施設の改良や新しい施設を作るために必要な資金の収支



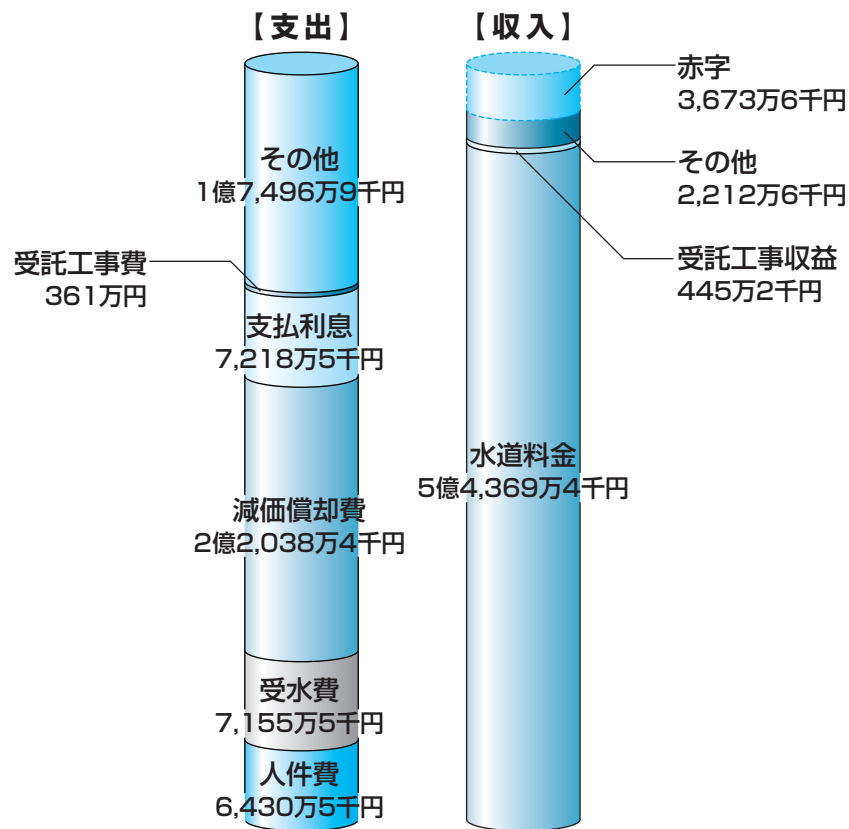
## 資本的収支

収入は、下水道布設工事に伴う工事負担金、水道を新規に開設する際に必要となる加入分担金や給水装置負担金、高金利対策借換企業債2400万円など合計で前年比340万7千円増加し、937万8千円になりました。支出については、下水道布設工事に合わせて、老朽管の

布設替・改良、第3浄水場施設の改修などを行い、建設改良費は前年比671万6千円減少し5791万9千円となりました。また、企業債の元金償還分として、2億6364万7千円支出しました。なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額2億2779万8千円は、内部留保資金で補てんしました。

## (税抜き) 収益的収支

水道料金による収入と、水を作ったり家庭に送ったりするための維持管理経費などを中心とした営業活動の収支



## 収益的収支

主な収入は、受託事業の減少により受託工事収益が445万2千円で前年比712万6千円減額、収入の柱である水道料金収入は5億4369万4千円で前年比1221万2千円の減額となり、総事業収入は5億7027万2千円、前年比1778万4千円の減額となりました。主な支出は、借入金の利息

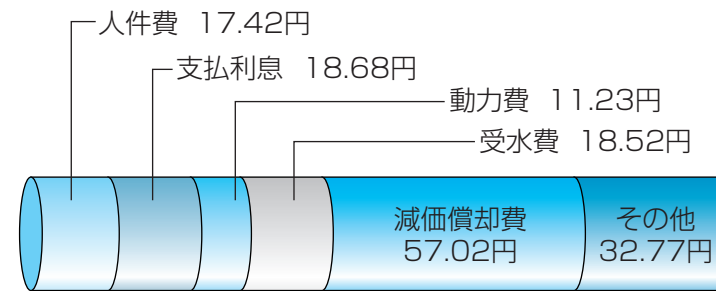
が前年比1427万9千円減少し、7218万5千円になりました。その他、受託工事費が前年比530万2千円減の361万円に減少、その他の経常経費の削減効果もあり、支出総額で前年比1599万6千円の減少の6億700万8千円となりました。よって、平成18年度収支では、3673万6千円の純損失（赤字）を計上しました。

## 水道事業は独立採算制

水道事業は、「地方公営企業」として法律により税金を使わずに、使用者の皆さんからいただく水道料金により運営するように定められています。これを「独立採算制」といい、税金や国などの補助金などで運営される町の会計とは全く違った運営形態となっています。また、会計方式は企業会計方式をとっており、収益的収支と資本的収支の2本立てで会計処理し、民間企業のように財務諸表と呼ばれる「損益計算書」や「貸借対照表」を作成しています。

▼問い合わせ 水道グループ管理チーム ☎079(435)2379

## 水道水1m<sup>3</sup>当たりの給水原価の内訳



## 給水原価と供給単価

給水原価とは、水1立方メートルを作るのに必要な費用のことです。平成18年度決算では155.64円になりました。供給単価とは、皆さんからいただいている水道料金の1立方メートル当たりの平均金額のことです。同決算では140.69円となり、給水原価が供給単価を約15円上回りました。つまり現状では、水1立方メートル給水することに15円の赤字になっています。